



教団百四十年型

あなたは一人じゃない



2人1組で戸別訪問にまわる若者たち（9月28日 奈良ブロック）

真明

発行所
天理教芦津大教会
〒546-0003
大阪市東住吉区
今川8丁目6番32号
電話 06 (6702) 1980
FAX 06 (6700) 1854
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp
印刷所 天理時報社

心を合わせ頼もしい道を作りてくれ。
あれでこそ真の道であると、世界に
映さにゃならん。

明治35年9月6日 おさしづ

9月は「全教会布教推進月間」。月末には「全教一斉にをいがけデー」もあり、多くのようばくが布教実動に励みましたが、にをいがけが苦手な方や経験の浅い方が布教をするには勇気が必要です。「神様の話をうまく伝えられない」「門前払いされるかもしれない」と不安が先立ち、踏み出せない人も多いでしょう。

そんなときに頼りになるのは、志を同じくし、共に動いてくれる教友の存在です。布教推進隊での実動で「他の参加者から勇み心を頂きました」との声もあつたように、この道を共に歩む仲間ほど心強いものはありません。

思い通りの御守護が頂けないときや悩みがなかなか解消しないとき、話を聞いてもらうことで、解決の糸口が見つかる。やる気が出ないとき、一人で動くのが怖いとき、一緒に活動することでやる気や勇気を思い出す。親しい教友がいればこそ、自らの足りない部分や誤りにも気付くことができる。

陽気ぐらし世界は、互いに立て合いたすけ合いながら実現へと進むものでしょう。お互いに勇み、勇ませ合って、人だすけに励む日々を過ごしましょう。

四方正面

信仰の道は「行動、実践、実行」であり「実行」に現れてこそ本当の信仰が分かり、深い味わいを醸し出すのである。

例えば、美味しいラーメン屋があると聞いて行ってみるとしよう。そして運ばれてきたラーメンを見て、でも、見ただけで「美味しそうだ」とは思うが、まだ味は分からない。そこで、値（お金）をもって実（ラーメン）を買う。実を買って食べる。そこで初めて「美味しかった」と、本当の味が分かる。聞いた、見ただけでは本当の味は分からず、「美味しそうだな」と「美味しかった」は全く意味が異なる。

教祖は「身の行いが心と言ふのや」とお教えくだされた。教えを実践、実行しようと努力する日々には、不足の心は消えて、喜びが増えていく。実行こそが年祭活動で、お互いの心は身の行いに現れてくる。

(山)

《9月月次祭 挨拶》

年祭活動の大詰めを迎えて

大教会長 井筒梅夫

皆様方には、日々は信仰活動にお励みくださり、教祖百四十年祭の御用にご丹精くださいます。誠にご苦勞様です。只今は9月の月次祭を滞りなく心勇んで勤めさせていただくことができました。大変ありがたい次第です。

先程の神殿講話で、本部学生担当委員会の山田作雄委員から、「学生層育成者講習会」としてお話いただきました。

末代の道を掲げるお道は、次の世代に信仰を伝えていくことを永遠の課題としています。ありがたいことにお道には、縦の伝道の土壤があると思います。それはおちばにおいて、「こどもおちばがえり」や「学生生徒修養会」などの育成行事が活発に、しかも継続的に行われています。こうしたおちばの動きと我が各教会に浸透して、縦の伝道の意識が培われているように思うのです。

これから未来のお道のことを思えば、この縦の伝道の意識を持ち続け、さらに高めていかなければなりません。そして教会長、ようぶくの子弟を信仰者へと育てていくためにも、おちばをはじめ、教会や地域で行われている育成活動を大いに活用して、先に道を歩む私たちが若い世代に信仰の喜びを伝える意識と努力、そして工夫をしっかりと重ねていきたいと思っています。

さて、スポーツファンを大いに沸かせた「世界陸上」の東京大会が先日閉幕しました。私自身もほぼ毎晩のように観ていました。日本選手の活躍には胸躍るものがありますが、東洋人は世界の中では体格的なハンディキャップがありますから、身体能力に秀でた外国人選手にはなかなか太刀打ちできません。

しかし、昔は海外の選手に堂々と対峙をして世界で活躍したアスリートが何人もいました。南部忠平選手は、本来は走り幅跳びの選手でしたが、三段飛びで華が開いて、ロサンゼルスオリンピックで見事金メダルを獲得しました。この競技ではロサンゼルスオリンピックの前後の大会、アムステルダム大会で織田幹雄選手が、ベルリン大会で田島直人選手が、それぞれ金メダルを獲りました。つまり日本人選手が三段跳びでオリンピックを3連覇したのです。昭和初期のことですが、当時三段跳びは日本のお家芸でした。

ところで三段跳びはホップ、ステップ、ジャンプと3回跳ぶ競技です。その中でも3歩目のジャンプでどれだけ跳べるかが記録を伸ばすカギになります。

これまでの教祖年祭では、年祭活動を三段跳びに例えて、1年目がホップ、2年目がステップ、そして3年目のジャンプで年祭活動を仕上げる、という意味で使われました。これに当てはめると、今年はジャンプの年になります。ということは私たちは今ジャンプをしているのです。その跳び方は各々、また各教会さまさまだと思います。力を入れてジャンプをしたところがあれば、力を入れ損ねたところもあるかもしれませんが、今私たちはジャ



ンプをしていて、しかももう着地に入ろうとしているところなんです。ですから私たちができることは、そのままストンと落ちることなく、着地のときにどれだけ足を伸ばせるかです。今はそういう時期であり、年祭活動は大詰めを迎えているのです。

来月は仕切りの秋の大祭です。大祭を勤めた3カ月後には教祖百四十年祭を迎えます。悔いなく教祖年祭を迎えられるように、三年千日の締めくくりを一手一つに勇んで勤め抜かせていただきたいと思います。共に踏ん張って勤め抜かせていただきますようにどうか勇んだご丹精をお願いいたします。

また今月末の3日間は「全教一斉にをいがけデー」です。にをいがけ、おたすけは教会長、ようぼくの大切な仕事です。この3日間にとどまらずに、普段からお道の良き「にをい」をかけ、おたすけに励ませていただきたいと思います。殊に今月から12月にかけて各地で実施している布教推進隊の活動に積極的に参加してください。

来月は三年千日最後の秋の大祭です。この大祭に向けてお互い御恩報じの心で、ちば一条の心でしっかりと時旬の御用の上に勤め切らせていただきますと思います。どうぞ皆様方の心勇んだご丹精をお願いいたします。今月の月次祭の挨拶とさせていただきます。

今日の月次祭、誠にありがとうございます。
(要約)

立教百八十八年 九月 月次祭 祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様の十全の御守護と果てしなき親心のまに／＼、日々を結構にお連れ通り下され、この道に引き寄せてようぼくとしてお育て下さいまして、陽気ぐらしを旨指すたすけ一条の道にお使い頂く御慈愛の程は、誠に有難き限りでございます。私共は届かぬながらも、御恩報じの心で教祖年祭の旬の御用に勤めさせて頂いておりますが、その中にも今日の吉日はおちばより当大教会にお許しを頂きました尊き日柄でございますので、只今から役目にあずかる者一同心を揃え、座りづとめ、陽気てをどりを勇んで勤めて、九月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には、芦津に繋がる道の子供達が、今日を大切な一日と参り集い、報恩感謝の心で共に唱歌を唱和する真心の状を御照覧下され、親神様にもお勇み頂きまして、身上や事情に悩み苦しむ人々の救かりと世の治まりの御守護を賜りますようお願い申し上げます。

さて、教祖百四十年祭まで残すところ四カ月となりまして、来月は三年千日最後の秋季大祭を迎えることになりました。年祭活動も大詰めとなる今の旬、私共をはじめ、教会長、ようぼくは、教祖のひながたの道に改めて思いを致し、どうしても教祖にお喜び頂きたいとの信念で、大祭を仕切って、おたすけと丹精に真実を尽くし切り、年頭の心定めに相応しいたすけ一条の働きをさせて頂く決心でございます。

何卒、至らぬところは幾重にもお仕込み下さり、何が何でも、どうしてもこのでもの精神に鮮やかな御守護を賜りまして、おたすけの喜びと丹精の実を以て、秋の大祭を勇み心一杯に迎えさせて頂けますようお願いの程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《9月月次祭神殿講話 学生層育成者講習会》

厳しく理を諭し 優しく情に育んで

本部学生担当委員会委員 山田作雄 先生

勇みは親神様のお望み

本日の「学生層育成者講習会」の話を務めるにあたり、大教会長様から「勇ませてくださいますよ」との大きなご期待を頂戴しました。「果たして私に、そのお心に適うよう務めさせていただけるかな」と思案をしたのですが、とてもありがたいお言葉でした。

「勇む」とは、親神様のお望みです。日々の中に、どれだけ心を勇ませて暮らすことが大事か、再認識できました。さらに、自らの心を奮い立たせ、勇んで毎日の務めに向かうことができ、不思議と結構なことをたくさんお見せいただきました。

勇むとは、積極的であること、意欲的であること。どんな中も「す

べて親神様の思召通りである」と思案し、喜び樂しむ心で生きることで。勇む心、勇んだ行いは、親神様の思召に適うことです。

いちれつにはやくたすけをいそぐから
せかいの心いさめかゝりて

一号 8

だん／＼と心いさんてくるならバ
せかいよのなかつころはんじよ

一号 9

だん／＼とにち／＼心いさめかけ
よふきづくめをみなにをしへて

十号 61

生涯のさしづして置く。人が勇
めば神も勇むという。

明治22年3月17日

さあ／＼皆勇んで掛かれ。勇む
事に悪い事は無いで。

明治33年10月31日

何よりも人の心が勇むことが、

親神様の勇まれる台となります。学生層の育成に限らず、勇むとは、陽気ぐらしの信仰のキーワードであり、大事な心構えです。

心配ない、大丈夫や

ただ今学生担当委員会では、「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」との基本方針を定めておりますが、大切なことは、先に道を歩む者が教祖をお慕い申し上げること。そして、その信仰信念を学生に映していくこと。その上で、若者に対して単に指示すだけでなく、共に味わいを深めることにあります。普段の言葉遣い、行い、心遣いが思召に適うものなのか、よくよく思案をする必要があります。人の言葉一つで勇気づけられ、希望を持てることがあり、逆に、見るに堪えない姿や聞くにしんどい言葉を受けると、失望することもあります。

私がまだ高校生の頃、自分の人生の向きについて悩みを持つ不安定な時期があり、「なぜお道を通ってほしいのか。私にどうなつてほしいのか」を父に尋ねたことがあ

りました。答えは実に単純明快で、「お前に幸せになつてもらいたい。そのためには、この道を通ることが一番結構な筋道だ」と話してくれました。それ以降も何度か同じ質問をしましたが、常に答えは同じでした。

また、私が人を羨んだり、蔑んだり、自分の実力でもないことを我が力と過信して傲慢な心を表に出しますと、「それはアカン。もつたいないことになる。傲慢になるより謙虚になつた方がいい」と教祖に喜んでもらう方がいい」と言われました。厳しいことも言われましたが、自分のことを思つて言ってくれていることばかりでした。折に触れ、期待する姿を、言葉を濁すことなくまっすぐに伝えてくれました。自らの後を継ぐ期待。何より、教祖の役に立つように育つてほしいという希望。その望みにはなかなか届かず、私の成人の歩みが遅くても「心配ない、大丈夫や」と、一人の男として認めながら育ててくれたように思います。他にも心配をかけることが多々ありましたが、その都度まっすぐ



話を聞いて、いろいろと自分の話をしてくれた上で、最後に口から出るのは「大丈夫や。教祖は悪いようにはなされない。おちばへ行ってこい」という言葉でした。曲がりなりにも大きく育てていただき、教会長にもならせてもらいました。苦労はもちろんありますが、幸せかと問われましたら、間違いなく幸せです。本当にこの道はありがたいと思うのです。

道に外れたる心で育てようと思
うた処が育たん。

明治33年1月4日
実に厳しいお言葉です。しかし、
後に続く人を育てようとするに、

必ず心掛けるべきお言葉であると思います。お道の教えは共に勇ませ合い、たすけ合い、そして親神様も共に楽しみくださる陽気ぐらしの御教えです。その結構さや喜びを、若い世代、未来の世代に伝えていくところに、今を生きるお互いの役割があります。

私は高校を卒業後、東京の大学に通うためアパートで一人暮らしをすることが決まっていました。荷物の準備を終えたところに母が来て、綺麗に装丁されたおふで書きを机に置いたのです。そして、「これは大事な物やから、大事に持っておきなさい。何かあったとき、読ませてもらうんやで。それだけお願いします」と、真剣な表情で渡してくれました。母の言葉通り、私は4年間、棚のいちばん目に入るところに置いて、何か考えに行き詰まったときに、おふで書きを目にすることができました。

母は多くは語りませんし、難しいことは言いませんが、「これは大事だ」と形に表して教えてくれたことは、今なお感謝しています。

親神様、教祖を素直に、また身

近に感じさせていただくことができるようになったのは、間違いなく尊敬する両親のおかげです。

若者に信仰を伝えるのが家族であり、親の役割です。どうか「この道は結構や」と勇んでお伝えいただきたいのです。

心一つでできること

家族以外の教会長さん方、役員先生方、学生担当の役を担っている方々の役割は、親が若者をよくほくへと育てようとする手助けをすることにあります。前を進んでは、勇んだ陽気な背中を見せること。横に並んでは、悩みに耳を傾けること。後ろに回っては、そつと優しく背中を押すこと。道の先輩に掛けられた言葉や優しさは、思いの外、覚えているものです。

大学生の頃、東京からおちばに参拝に帰りました折、旧知の方々が「よく帰ってきたな。元気そうやな。顔を見て嬉しいで」久しぶりやな。元気にしてるか。しっかりご飯食べや」など、優しく声を掛けてくれたことは、おちば帰りをさせてもらった際の嬉しい記憶の一つで、「お道の人は優しい人が多いな」と感じました。

憶の一つで、「お道の人は優しい人が多いな」と感じました。

先般、20歳過ぎの男性に、誰か尊敬する人がいるかを尋ねたところ、私どもの教会の人の名前が出てきました。温和で真面目な60歳ぐらいの方です。理由を聞くと、「いつも優しく声を掛けてくれるんです。いつも笑っておられるんです。いつも『よう来たな』って言ってくれるんです。こちら嬉しい気持ちになるんです」と嬉しそうに話してくれました。

「声を掛ける」「笑顔でいる」ことは大層なことではありませんが、日々常々心掛けるのは、なかなか難しいことです。しかし、若い人はよく見えています。こうした心掛けが若者に映って、満足や勇みに繋がっているのです。

『逸話篇』の「一九五 御苦労さま」というお話に、

教祖程、へだてのない、お慈悲の深い方はなかった。どんな人にお会いなされても、少しもへだて心がない。どんな人がお屋敷へ来ても、可愛い我が子供と
思うておいでになる。どんな偉

い人が来ても、

『御苦勞さま。』

物もらいが来ても、

『御苦勞さま。』

その御態度なり言葉使いが、少しも変わらない。皆、可愛い我が子と思うておいでになる。

とあります。教祖は誰が来ても「御苦勞さま」とお優しくお迎えくださった様子がよく分かる逸話です。

親里で行われるお節会やこどもおぢばがえりなどの行事では、真柱様が帰参される皆さん方をお迎えなさるお姿を拝見します。団参

を連れた会長さんや奥さんにも、小さなお子さんにも、初めてお節会に連れられた方にも、変わらず頭を下げて、優しいご表情でお迎えになれます。そのお姿に触れると、陽気な心になり、嬉しい、ありがたいという思いになったことが何度もあります。

教会にお越しになる方、寄り集う若い方への和やかな声掛け、気持ちのいい挨拶、受け入れる心。私たちの心掛け一つで、できることはたくさんあると思います。

私は、挨拶は誰よりも元気に、

そして丁寧な声を掛けようと決めて、実行しております。すると、相手がだんだんと明るくなり、話をしてくれるようになってきます。私はその顔に喜びを頂くのです。

子供に満足を

教祖は、世界一れつをたすけるため、御教えをお伝えくださいましたが、口で伝えてくださったこともあれば、身に行ってお教えくださったこともあります。一人ひとりの心の成人に合うように、丁寧にお導きくださいました。

教祖は、子供に対しても、頗る丁寧な、柔らかく優しく仰せられたというが、その優しいお言葉に、ひながたの親としての面影を偲び、刻限刻限に親神の思召を伝えられた、神々しくも厳かなお声に、月日のやしろとしての理を拝する。厳しく理を諭し、優しく情に育んで、人々を導かれた足跡に、教祖の親心を仰ぐ。

『教祖伝』167頁と、『教祖伝』に教祖の面影が記されていますが、私は「厳しく理を諭し、優しく情に育んで、人々を

導かれた」という一文に、道を通る者が人を育て、導く角目をお示しくださっていると思うのです。

お子様方が、教祖と共に前を向いて生活をされたのはなぜか。道が広まり、たすけを頂かれた先人たちが、我が身思案を捨てて、たすけ一条の道に入られたのはなぜか。多くの方々が、おぢばを、教祖をお慕い申したのはなぜか。教祖が一人ひとりに対して懇切丁寧に、明るく優しく親神様の思召を伝え続けられたからです。

信仰の喜びは、万人に分かりやすいものもあれば、一見厳しい物事の中にこもる親神様の御守護、教祖のお導きの温かみを感じるところにもあります。この道を通るからこそ味わえる「不自由に見え、中の自由自在の御守護」や、こうした親神様の思召を思案する日々があるからこそ喜びも含め、「ありがたい、嬉しい、結構や」という喜びを人様に伝えていくことが大切なのです。この道は、間違いなく幸せに向かう道であるという自信を持って、勇んで若者にお伝えいただきたいのです。

若者を丹精する際、もくろみ通りにいかないこともあります。本年の婦人会総会において真柱様は、

育てよう、丹精しようという相手が思うようについてきてくれないときには、相手をどうこう言うのではないのです。まずは自分の通り方、教え方、導き方に、届かない点はなかっただろうかと謙虚に見つめ直し、改めるべきところは素直に改めることを心がけてもらいたいのであります。そして何より、自分自身がこの道を通ることに自信と誇りを持っていただきたいのであります。

『みちのとも』令和7年6月号7頁と仰せくださいました。

子供は親の背中のみならず、親のすること、話すこと、すべてよく承知をしています。陽気ぐらしの実践をしているか、不足の姿を見せていないか、先々に不安な気持ちを抱かせる言葉を使っていないか、我が身のあり方を思案し、後に続く人が育ってくれるよう、心を尽くしたい。こうしてお互い

が勇むよう尽力するから、親神様が勇んでお働きくださるのです。

満足は心の理、優しき者は日々満足。満足は小さいものでも、世上大き理に成る。これより大き理は無い。満足広く通り、不足はあちら縮める、こちら狭ばむ。時によれば取れて退く。

明治33年7月14日

ご自身のお子様はもとより、縁あつて教会に繋がる若者に対して、親神様の御守護溢れる日々の結構さを伝え、その心に満足を与えていくのは、私たちの言葉、行いであり、心のありようです。「うまくいかないな、どうしてだろう」と不足の思案をするよりも、現れてくることにこもる神意を探り、優しい心で喜んで過ごさせてもらおう。そして、人に満足してもらえないようになろう。そうすれば間違いない、と教えてくださっているように思います。

さらにこのお言葉は、「満足というものは、あちらでも喜ぶ、こちらでも喜ぶ。喜ぶ理は天の理に適う」と続きます。また、皆遠く所から厭わずして来る心

だけ受け取って、十分満足与えてやらにやならん。満足すれば一所やない。世界に映る。不足で行く／＼すれば、理が消えて了う。何処までも皆々満足集まつて道と言う。これだけ一寸話して置こう。満足十分さしてやつてくれにやならん。満足の理から芽が吹くで。

明治37年2月6日

とも仰せくださいます。親神様の御神意は、子供である人間を満足させてやりたい、とのお気持ちだと拝するのです。どんな中でも若者に喜びの心と満足を与えることを、私たちの心としたいのです。どうか、それぞれのご家庭において、また各教会においても若者に満足を与え、満足が集まり、共に親神様の思召に近づく歩みを進めていただければと思います。

小さいようで大きい

論達に「ちばを慕い親神様の思召に添いきる中に、必ず成程という日をお見せ頂ける。」とお示しいただきますが、私たちの信仰はちばを慕う、ちばに運ぶことで、

結構な御守護をお見せいただけます。

私たちがおちばに帰りましたら、教祖は必ず優しく抱きしめてくださいます。おちばにはいろいろな年齢の、たくさんの方がお帰りです。その一人ひとりのご挨拶や願いを、教祖は全てお耳にお入れくださるわけです。教祖は悪いようにはなされません。良きようにお導きくださいます。

特に学生たちには、親里で開催されます「学生生徒修養会」や「お節会学生ひのきしん」などもちばがえり学生ひのきしん隊」等がございいますので、ぜひともご活用いただきたいと思います。

また来年は教祖百四十年祭が執り行われますが、その2カ月後の3月28日には「教祖百四十年祭学生おちばがえり大会」を開催いたします。将来、お道の信仰を繋いでもらいたい、人だすけのできるようばくに育ってもらいたいと願うのであれば、おちば帰りは外せません。若者をおちばに誘うことは大きな丹精ですので、芦津大教会に繋がる学生の皆様方にも、こ

の大会に大勢ご参加いただけますよう、ご丹精をお願いします。

小さいようで大きなもの、大きなもの小さきものの理があるから大きなものや。日々勤め小さいようで大きい。何とも無く思えば何でも無い。何でも無いもの大切の理に運んでくれる。この理は計り難ない。まあこれだけ尽す一つの理、これだけの事は見て置けん。これだけの事は捨て、置けん。明治23年6月23日、どんなに小さく見えることでも、真心を尽くして取り組むことで、小さな誠実の伏せ込みや丹精が大きくなる。その心は捨ておかず、親神様がお受け取りくださる、という意味だと思います。

どうか道の将来を担う若者が、教祖の道具衆として働く人材に育つよう、末代かけて神人和楽の陽気ぐらし世界へ向かう道を歩んでくれるよう、共に小さなことから大きな心で、優しいお声掛けと満足を与える心配りを第一に、誠を尽くして存分に動かしていただきたいと存じます。

秋季霊祭執行

9月24日、大教会神殿、祖
霊殿で秋季霊祭が執行された。

午前10時より神殿で十二下
りのおつとめを勤めた後、祖

霊殿の儀。井筒文夫役員が祭
文を奏上し、在籍者、教会長、

各会の代表者、そしてこの日
合祀された霊様の関係者が祖

霊殿前に参進し、参拝した。

秋季霊祭合祀

秋季霊祭において新たに合
祀されました。

森内博子之霊

大教会婦人

天保山分教会五代会長夫人

中原フサエ之霊

笠松分教会初代会長

中原直由美之霊

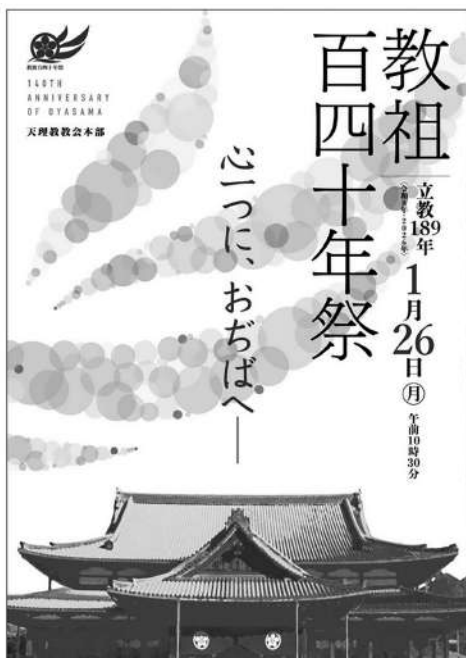
笠松分教会二代会長夫人

谷上正子之霊

眞一分教会四代会長

今村壽雅子之霊

鎮恵分教会三代会長



立教百八十八年 秋季霊祭祭文

これの祖霊殿にお鎮まり下さいます、初代真柱中山眞之亮の霊様、二代真柱中山正善の霊様、初代真柱夫人中山たまへの霊様、本席飯降伊藏の霊様、並びに芦津大教会初代会長井筒梅治郎の霊様をはじめ、歴代会長の霊様、眞明芦津の上に尽くし伏せ込まれました役員、教会長、ようばく、信者諸々の霊様、更にはこの度新たに霊代に書き記し合わせて祀る天保山分教会五代会長夫人森内博子の霊様、天保山部属笠松分教会初代会長中原フサエの霊様、二代会長夫人中原直由美の霊様、尼崎部属眞一分教会四代会長谷上正子の霊様、和鎮部属鎮恵分教会三代会長今村壽雅子の霊様、併せて千五百二十八柱の霊様の前に、天理教芦津大教会長に代わりて井筒文夫、慎んで申し上げます。

御本部四柱の霊様には、道の芯としてようばくの先頭に立たれて、たすけ一条にご丹精をお重ね下され、温かきお心で道の子達をお導き下さいました。お陰を以てこれの御教えの道が伸び開けて、今日の世界たすけの道がございます。又、初代梅治郎の霊様には親神様のお手引きによりこの道にお引き寄せ頂かれ、爾来御恩報じに眞実を伏せ込まれ、おぢばへのご奉公と、おたすけと丹精に眞心を尽くされて、今日の眞明芦津の確たる礎をお築き下さいました。また、夫々の霊様には親神様のお手引きのまに／＼眞明芦津の道の草分けの頃から、ならん中をも神一条に誠眞実をお尽くし下され、或は国々処々に在っては、幾重の道すがらも心勇んでたすけ一条にお励み下さいました。これの道が年限と共に結構な理をお見せ頂き、幾多の節から芽が吹いて、今日も変わらず御教え通りの道を歩ませて頂けますのも、親神様、教祖の厚き御守護と深き親心の現われではございますが、又一つには霊様方が永の年限、代を重ねて伏せ込まれた眞実の賜と、朝夕御礼を申し上げて怠る時とてございません。その中にも今日のこの日は今年の秋の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので、御前に種々の心尽しの物を供え、在籍者をはじめ、参き集う人々と共に、御遺徳を偲び、御生前の御丹精を改めて厚く御礼申し上げます。

私共をはじめ、芦津に繋がる教会長、ようばく一同は、霊様方が代を重ねて眞実を尽くしお築き下さった今日の道に誇りを持って、たすけ一条の後に勇んで続くことのできるように、年祭活動締め括りの御用を、一手一つに心勇んで勤め切らせて頂く決心でございます。何卒一同の眞心を御心安らかにお受け取り下さいまして、教祖のご苦勞ご苦心にお応えできる働きをさせて頂けますようお願いの程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

第5回芦津学生会総会

9月21日、芦津学生会は大教会で「第5回学生会総会」を開催。芦津に繋がる学生27名（高校生12名、大学・専門学校生15名）が参加した。

午前10時から総会を開始。河合大洋委員長は祭文で日頃の活動への感謝を述べた上で、「教祖百四十年祭へ向け、自分たちにできるおたすけを心掛けて、教祖にお喜びいただきたい」と誓いを奏上した。続いて、3交替でおつとめ。お



つとめ衣を身に着け、陽気に勤めた。

式典では、最初に大教会長が祝辞。「大きな建物には、必ず目に見えないしっかりした基礎工事がされている。私たちの信仰では、日頃のひのきしんやおつとめなど、目立たないところでの基礎づくりを『伏せ込み』という。若い間にしっかりと伏せ込んで、信仰の揺るぎない基礎をつくってほしい」と話された。さらに、「学生にとつての百四十年祭活動は、来年3月のおちばがえり大会に、友達や知り合いを誘って参加すること。大勢の仲間と共におちばへ帰ってきてください」と言葉を掛けられた。河合委員長の挨拶の後、毛利祐太新委員長が、来年3月28日に本部で開催される「教祖百四十年祭学生おちばがえり大会」について説明。「芦津から100名の仲間と共に、おちばへ帰ろう」との目標を発表し、仲間を誘って参加するよう促した。

午後からは食堂を会場にアトラ

クションを行い、班ごとに分かれたのゲームや福引大会などで親交を深めた。

初めて参加した学生からは、「行く前は不安が大きかったが、とても楽しかった」などの感想が聞かれた。

青年会ひのきしん隊

青年会芦津分会（井筒敏成委員長）は、9月2日から23日まで、おやさとふしん青年会ひのきしん隊に入隊した。

中でも13日は「家族入隊日」で、



6家族22名が入隊した。この日の作業内容は、38母屋のシート交換ひのきしん、百母屋清掃などで、家族が和気あいあいと楽しみながらおちばで伏せ込んだ。

また、全期間を通して、青年会員29名、OB3名、その他15名、計47名が入隊した。

なお、来年の芦津分会の入隊月は11月となっている。青年会員の皆様、ぜひともおちばへの伏せ込みにご参加ください。



9月13日家族入隊日の参加者

布教推進隊

布教部

布教部（竹内義忠部長）は、各教会、またようばくの布教力と布教意欲の向上を目指し、9月から12月にかけて、全国13カ所のブロックに対して、布教推進隊を派遣し、共に布教実動に励んでいる。

〈兵庫ブロック〉

9月20日 稗島分教会

派遣員の趣旨説明の後、班に分かれ、稗島分教会周辺の神名流しを行い、その後戸別訪問を行った。終了後は、振り返りを行い、20代



兵庫ブロックでの神名流し

の男性からは、「にをいがけが不慣れなので、今日はいい経験になりました」との声があった。

〈徳島ブロック〉

9月27日 徳島教務支庁

派遣員の趣旨説明の後、5つの班に分かれ、神名流し、路傍講演、リーフレット配りを行った。1つの班は徳島教務支庁から徳島駅までを神名流し、駅前で行きかう大勢の方々に向け、順番に路傍講演を行った。参加者は33名。

布教実動終了後は、教務支庁で振り返りを行い、「大教会から来ていただくと、大勢で勇んでにを



徳島駅前での路傍講演

がけができありがたい」今日を機に、日々のにをいがけに繋げていきたい」などの声が聞かれた。

〈奈良ブロック〉

9月28日 詰所



奈良ブロック 2人1組での戸別訪問

派遣員の挨拶の後、にをいがけドリルを実施。2人1組となり、声掛けなどのロールプレイを行った。その後、2人1組で、詰所付近の戸別訪問を行った。

振り返りでは、「戸別訪問で、もう一人の方の布教方法や、声の掛け方が勉強になった」「これをきっかけに近隣の方と一緒に活動する機会をつくりたい」などの意見が



鹿児島ブロック 振り返りの様子

聞かれた。参加者は12名であった。

〈鹿児島ブロック〉

9月28日 南国分教会

派遣員の挨拶の後、神名流しとリーフレット配布班に分かれて実動。終了後は、2班に分かれ、この日の感想や、普段の布教活動について、意見交換を行い「これからもこつこつと自分にできるにをいがけを続けていきたい」「今日のように多くの方とつながることができる機会がありがたい」などの声が聞かれた。参加者はようばく15名、少年会員10名であった。

事情はこび

立教188年9月26日お許し

荳美屋分教会

任命

三代会長

榎 つよ子 68歳



昭和52年おさづけの理拝戴、54年天理看護学院卒業、60年修養科第531期修了、令和7年教人登録、教会長資格検定合格。
就任奉告祭 11月2日

昭大分教会

移転

徳島県三好市池田町ウマバ六百参拾八番地の式より
徳島県三好市池田町イタノ参千参百参拾六番地の吉

へ移転

鎮座祭 11月29日

奉告祭 11月30日

教務部報

教人登録

吉田 香織 (荳 東)

立教188年9月4日

教人資格講習会第154回修了

木村 昌恭 (荳 明徳)

立教188年9月10日

ようぼく講習会修了

関本 周平 (紀 周)

立教188年9月15日

修養科第1009期修了

菊池 愛子 (大 関門)

中島かのん (上有明)

前田 裕教 (上有明)

加世田奈津子 (大 島)

久保 勇登 (大 棚)

立教188年9月27日

おさづけの理拝戴《8月》

若林 五月 (紀 船)

若林 伸行 (紀 船)

《拝戴日順 2名》

初席《8月》

《2名》脇西、四ツ山

《1名》吹田、鳥栖、當別、大島、大朝、荳浪

《順序運びより 10名》

月例統計 (自令和7年1月1日～至令和7年8月31日)

項 目 名 称 () 内教会数	初 席	の お 理 さ づ け	修 養 科 修 了	教 人
大 教 会 (1)	10	5		
東 津 (13)	2			
吉 野 (23)	4	3	4	
島 川 (29)	7	5	1	
日 原 (16)	6	5		
稗 島 (15)	4	5		
本 津 (7)				1
日 津 (2)				
始 良 (2)		1		
津 和 (5)	2			
門 司 (12)	1	2		1
當 別 (6)	2			
大 島 (26)	9	5	3	
沖 縄 (3)				
尼 崎 (2)	1	1	1	
四 ツ 山 (5)	2	1		
大 冠 (2)				
島 下 (1)				
天 保 山 (3)				
青 木 (1)				
荳 浪 (1)	1	2		
甲 邊 (1)		1		
荳 華 (1)				
天 津 (1)	1	1	1	
入 江 (1)				
豊 野 (1)	2			
紀 周 (3)	3	2	2	1
勝 明 (1)				
神 の 島 (1)				
兵庫眞洲 (1)				
荳 ノ 郷 (2)				1
本 明 勇 (2)				
明 道 (1)		1	1	
荳 東 (1)				
和 鎮 (3)	1	2		
神 滝 本 (1)				
荳 明 徳 (1)	3	1	1	1
眞 明 彰 化 (2)	10	1	2	
本 氣 (2)				
荳 明 照 (1)				
眞 伯 (1)				
合 計 (209)	71	44	16	5

教祖 140 年祭

学生おぢばがえり大会

令和8年 3月28日 午前10時

100人の仲間とおぢばへ帰ろう!!

学生層の丹精に広くお声掛けをお願いします>>>